

地域災害に対する緊急助成

—臨時理事会開催—

有珠山の噴火に伴い、多くの方々が被害を被り、不自由な生活を強いられています。障害者が通所する作業所も数カ所が閉鎖されているようです。

当財団は、先の阪神・淡路大地震の際に迅速な対応をしたことで評価を受けましたが、今後地域災害発生時に、障害者福祉関係で緊急な助成を要請される場合に備えて、会議会合、国際交流費500万円の枠の中で、地域災害に対する助成を行うことを、持ち回りの臨時理事会で決定いたしました。

今回の有珠山対応は、現地に関係各方面からの支援が集まりつつあるところから、財団としては当面は静観していますが、今後発生する地域災害で、関係者から緊急に要請があった場合は、随時選考委員会を開催し、緊急に対応する予定です。

なお、規模が大きい災害に備えて、当財団は通常よりかなり大きな1000万円の予備費を予算化しています。

平成11年度の決算

—定例理事会開催—

平成11年度の決算を審議する定例理事会は、6月27日、東京西新宿の安田火災海上本社ビル43階で開催され、原案通り承認可決されました。

平成11年度収支計算書

(単位:千円)

| 項目 | 決算額 | 予算差額 |
|-------------|---------|---------|
| 収入の部 | | |
| 1. 基本財産運用収入 | 15,241 | △3,241 |
| 2. 寄付金収入 | 97,590 | △7,590 |
| 3. 雑収入 | 65 | 135 |
| 4. 基本財産収入 | 20,000 | 0 |
| 当期収入合計 | 132,896 | △10,696 |
| 前期繰越収支差額 | 36,873 | △32,373 |
| 収入合計 | 169,768 | △43,068 |
| 支出の部 | | |
| 1. 事業費計 | 60,845 | 10,155 |
| (1) 社会福祉事業 | 43,907 | 4,093 |
| (2) 福祉諸科学事業 | 12,097 | 3,903 |
| (3) 文献表彰事業 | 4,841 | 2,159 |
| 2. 管理費計 | 23,108 | 1,692 |
| (1) 人件費 | 17,186 | 814 |
| (2) 物件費 | 5,922 | 878 |
| 3. 基本財産支出 | 40,262 | △29,262 |
| 4. 特定預金支出 | 100 | △100 |
| 5. 予備費 | 0 | 10,000 |
| 当期支出合計 | 124,314 | 1,486 |
| 当期収支差額 | 8,581 | △12,181 |
| 次期繰越収支差額 | 45,454 | △44,554 |

平成12年度貸借対照表

(単位:千円)

| 項目 | 金額 |
|---------------|-----------|
| I 資産の部 | |
| 1. 流動資産計 | 50,666 |
| (現金預金) | (38,398) |
| (有価証券) | (12,257) |
| (仮払金) | (11) |
| 2. 固定資産計 | 870,578 |
| 基本財産計 | 870,000 |
| (投資有価証券) | (565,000) |
| (定期預金) | (305,000) |
| その他固定資産計 | 578 |
| (什器備品) | (478) |
| (退職給与引当預金) | (100) |
| 資産合計 | 921,244 |
| II. 負債の部 | |
| 1. 流動負債 | 5,212 |
| (未払金) | (4,830) |
| (預り金) | (381) |
| 2. 固定負債 | 100 |
| (退職給与引当金) | (100) |
| 負債合計 | 5,312 |
| III. 正味財産の部 | |
| 正味財産 | 915,932 |
| (うち基本金) | (870,000) |
| (うち当期正味財産増加額) | (48,653) |
| 負債及び正味財産合計 | 921,244 |

財団への寄付

— 皆様方のご協力をお願いします —

最近は多くの方々から、財団に対し寄付をいただくようになりました。当財団の平成11年度収支計算書に記載されている運用財産としての寄付金収入は9,759万円で、そのうち9,000万円が安田火災海上保険株式会社から、残る759万円が、その他からとなっています。

759万円の内訳は、安田火災関連会社など法人関係26件、431万円、個人は19件で328万円となっています。

個人寄付の理由としては冠婚葬祭のお返しが圧倒的に多い中で、90歳を超えた安田火災OBの方から、毎年の誕生日毎に一定額をご寄付いただいているケースもあり、財団関係者一同大変感激しております。

なお本年度からは、安田火災海上保険株式会社社員各位が毎月の給与から一定額を寄付して集めた「ちぎゅうくらぶ社会貢献ファンド」の一部を、当財団に寄付していただくことになっています。

当財団は特定公益増進法人の資格を得ていないため、個人寄付の場合、誠に残念ながら税制上の恩典はありません。

後藤理事長から有吉理事長へ

—理事長、専務理事が交代—

7月1日付けで、財団役員的人事が変わりました。平成12年度第1回理事会において、昭和61年、三好武夫理事長に継いで第2代目の理事長に就任した後藤康男理事長が理事長職を退くこととなり、第3代目理事長に、有吉孝一副理事長が就任しました。

また、6月末で服藤收副理事長と堀内生太郎専務理事も理事を辞任し、専務理事の後任には、田中皓（前安田火災海上保険株式会社仙台支店長）が就任いたしました。

新しい役員名簿は次の通りです。

理事長 有吉孝一（安田火災海上保険株式会社相談役）
専務理事 田中皓（専任）

理事 鴻常夫（法学博士・東京大学名誉教授）
理事 金田一郎（財団法人日本社会福祉弘済会理事長）
理事 後藤康男（安田火災海上保険株式会社名誉会長）
理事 戸澤政方（元衆議院議員）
理事 西嶋梅治（法学博士・法政大学名誉教授）
理事 森島昭夫（財団法人地球環境戦略研究機関理事長）
理事 和田正江（主婦連合会会長）
監事 斎藤昭一（監査法人太田昭和センチュリー代表社員）
監事 望月純（安田火災海上保険株式会社経理部長）

第1回安田火災記念財団賞 贈呈式開催

— 厚生大臣から祝辞 —

社会福祉に関する優れた学術文献を表彰する、第1回（平成11年度）安田火災記念財団賞の贈呈式が、去る5月24日、安田火災本社ビル43階で開催されました。

金子、筒井両氏が受賞

栄えある第1回の受賞者は、著書部門が、「ピアトリス・ウェップの福祉思想」をドメス出版から刊行された淑徳大学助教授金子光一氏、論文部門は、「介護保険制度下におけるケアシステムの未来」を2回にわたって社会保険旬報に掲載された国立公衆衛生院主任研究官筒井孝子氏のお二人で、それぞれ賞状と記念品（万年筆）、副賞として研究助成金（著書部門100万円、論文部門30万円）が、有吉副理事長から手渡されました。

厚生大臣祝辞

当日は丹羽厚生大臣から、当財団の活動に対する期待を込めたご祝辞をいただきました。

記念講演会

表彰式に先立ち、お二人の受賞者による記念講演会を開催いたしました。

記念講演会の講演録は、財団叢書 No.62 として、近日中に発行予定です。この財団叢書は無料で配布いたしますので、ご希望の方は、財団事務局までご連絡下さい。

第2回安田火災記念財団賞

本年度の第2回安田火災記念財団賞は、平成11年度中に発行された著書、論文を対象とし、現在、日本社会福祉学会や日本地域福祉学会の理事など指定推薦者の方々に、対象文献の推薦を依頼中です。

つぎの方々から寄付をいただきました。有難うございました。（寄付日順）

須田暁様
安田火災ちきゅうくらぶ本部様
安田火災海上保険株式会社様
安田火災遭星会様
安田火災ホットラインサービス株式会社様
加藤博之様

—安田火災記念財団ニュース—

発行日：平成12年7月1日
発行者：財団法人安田火災記念財団
〒160-8338 東京都新宿区西新宿1-26-1
電話 03-3349-3130 ファックス 03-3349-3133
<http://www.yasuda.co.jp/foundation/>
<e-mail>fygp3340@mb.infoweb.ne.jp